

令和 2 年度 富士見小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

1 基本目標

心豊かで健やかな体を持ち，創造性豊かに自ら学び自ら考え，主体的に判断し行動し，よりよい社会の発展を目指して，たくましく生きる児童の育成を目指す。

2 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- 心豊かで，思いやりのある子ども（心豊かな子）
- よく学び，工夫する子ども（よく学ぶ子）
- 健康で，たくましい子ども（たくましい子）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

児童と教職員の望ましい人間関係を基盤に，確かな児童理解に裏打ちされた，一人一人のよさや強みをほめて伸ばす指導の充実により，児童の多様な個性・能力を伸長する。また，互いのよさを生かしながら，支え合い高め合える集団を形成して，すべての児童が自信と誇りの持てる学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

教育目標の具現化を図り，教職員が一丸となって居がいと活力のある学校づくりに努める。

1 認め励ます指導を基本とした心の教育の推進

- (1) 自己有用感，規範意識，他者を思いやる心の育成及び組織的な指導體制
- (2) 道徳教育を核に，教育活動全体を通した豊かな心やたくましい心の涵養

2 基礎・基本な確実な習得と主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善

- (1) 「読む力」「書く力」「聞く力」「話す力」や計算などの指導の充実
- (2) 学習意欲・表現力・思考力等の向上を目指した主体的・対話的で深い学びの研究・実践

3 健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成

- (1) 教科体育，元気っ子チャレンジや各種検定，食育等の校内共通した取組の充実
- (2) 危険を予知し，自らの命を守り抜くための判断力や行動力の育成

4 教職員の資質・能力の向上と働き方に関する改善

- (1) 協働的な同僚性による校内研修や教職員どうしの学び合いの充実
- (2) 全教職員が協働した業務の適正化によるワークライフバランスを意識した働き方の推進

5 地域とともにある学校づくりの推進

- (1) 地域の教育資源を生かした教育活動の展開と家庭・地域と連携した学びの実践
- (2) 学校園における小中の連携と，義務教育 9 年間を一体とした指導の推進

【宮の原地域学校園教育ビジョン】

「心豊かで輝く子どもの育成 ～ほめて伸ばす(自己肯定感を高める)～」

4 教育課程編成の方針

- ・ 関係法令，国，県，市の方針や重点及び本校の実情や課題を踏まえ，教育目標の具現化を目指した教育課程を編成する。
- ・ 教育活動全般の見直しを不断に行い，児童と向き合う時間の確保に努める，

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

確かな児童理解に裏打ちされた，一人一人のよさや強みほめて伸ばす指導の充実

【学習指導】

主体的に学習に取り組み，生き生きと学び合う児童の育

【児童生徒指導】

よりよい集団づくりを通した，規範意識と自己有用感の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

体力の向上を目指して運動に親しみ，健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 児 童 の 姿	<p>A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員 85%</p>	<p>①一人一人が自由に発言できるような学習集団作りに努めるとともに、学習活動の中で、小集団での話し合いの場を設定し、発言しやすい環境を作り、コミュニケーション力を育成する。</p> <p>②課題の提示や教材の工夫をし、さらに主体的に学習に取り組めるようにする。</p> <p>③新教育課程の円滑な実施のため、主体的、対話的で深い学びについての実践研究を行う。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員 100% 保護者 96.0% 児童 96.4%</p> <p>・「みんなのやくそく（学習編）」の共通理解のもと、落ち着いた雰囲気での授業が進められた。児童は、めあてに向かって一生懸命学んでいた。</p> <p>・課題の提示や教材の工夫をしたことにより、児童は自分の思いや考えを意欲的に表現しようとしていた。</p> <p>【次年度の方針】 ・教師のコーディネート力を高めることにより、児童の主体的な学びに向かう授業づくりに努める。</p>
	<p>A 2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 教職員 85%</p>	<p>①体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。</p> <p>②児童会や清掃における縦割り班活動等を通して、相手の立場を考えた思いやりの心を育む。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員 100% 保護者 92.0% 地域住民 100% 児童 93.5%</p> <p>・誰もが安心して生活できる学級経営を基盤に、道徳の授業や縦割り班活動、まごころカード等を通じて、他者の良さに目を向け、思いやり助け合うことができる児童が増えた。また、上級生が下級生の面倒を見るという積み重ねができており、優しく接している姿が多く見られた。</p> <p>【次年度の方針】 ・安心感と居がいのある学級経営を心がけるとともに、道徳科の授業や人権教育、縦割り班活動を通じて他者のよさに目を向け、思いやり助け合える児童の育成に努める。</p>
	<p>A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員 85%</p>	<p>①<u>生活と学習の「みんなのやくそく」</u>による日常指導の充実を図るため、職員の共通理解と組織的対応を図るなどして指導を徹底する。</p> <p>②教師による生活当番活動を実施すると共に、保護者との連携・協力を図り、支援体制を充実させ、児童理解に基づく個に応じた適切な対応に努める。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員 97.8% 保護者 94.4% 地域住民 100% 児童 90.7%</p> <p>・「みんなのやくそく（生活編）」を中心に学校生活に必要なルールやマナーについて教職員が共通理解を図り、同一歩調で継続的に指導に当たるなど、学校全体で規範意識の向上に取り組んだ。「みんなのやくそく（生活編）」をスタンダードダイアリーに貼り、スムーズにルールの確認ができるようにした。</p> <p>・本年度は、全校集会などで全体での生活指導を行うことができなかったため、放送を通じて全校に呼びかけ、指導の徹底を図った。</p> <p>【次年度の方針】 ・規範意識を高め、児童が安心・安全な学校生活を送れるよう、「みんなのやくそく（生活編）」と職員の共通理解を基盤とした枠組みの中で、継続的な指導を行う。</p> <p>・道徳科の授業などを通して、ルールやマナーの意味や必要性について理解を深められるようにする。</p>

<p>A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 教職員 85%</p>	<p>①あいさつボランティアや委員会活動、あいさつ名人、学級など様々な機会や場面であいさつの推進を図るとともに、あいさつへの関心を高めたり、時と場合に応じたあいさつの仕方を身に付けたりできるようにする。</p> <p>②日常的に呼名に対する返事等の指導の徹底を図る。</p> <p>③宮の原地域学校園全体であいさつ運動を実施する。</p>	<p>【達成状況】 教職員 91.3% 保護者 84.0% 地域住民 92.3% 児童 95.4%</p> <p>・本年度は、感染症対策のためあいさつ運動やあいさつ名人の活動を実施することができなかった。様々な場面であいさつの大切さを指導したり、教員が積極的に児童にあいさつをしたりすることで校内でのあいさつの習慣は、よく身に付きつつある。一方で登下校時のあいさつについては元気がない傾向があるので、家庭や地域と連携を図りながらあいさつの啓発を続けていきたい。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・児童があいさつの意義を十分に理解し、挨拶の習慣が身に付くよう、学級や学年を中心として発達段階に応じた指導を継続していく。</p> <p>・新型コロナの状況に応じて、児童を主体とするあいさつ運動などの活動を推進していく。</p>
<p>A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 児童 85%</p>	<p>①授業や各種検定等において、児童が主体的に目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。</p> <p>②道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践に向けた意欲を高める。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100% 保護者 84.2% 児童 92.4%</p> <p>・授業や学期ごとにめあての設定や振り返りを行ったり、学級目標を設定したりして、目標に向かって努力している児童を認め励ます指導に努めた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・全ての教育活動において、児童が主体的に目標に向かって取り組めるよう仕組んでいく。</p>
<p>A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 教職員 85%</p>	<p>①運動委員会を中心に元気っ子チャレンジや各種検定に挑戦する場を設定し、目標を持って積極的に運動を実施し、体力向上への意欲を高める。</p> <p>②毎日の給食指導を着実に実施したり、給食週間の取組の中で好き嫌いや栄養のバランスについての指導を行ったりする。</p> <p>③危機を予測し自らの命を守り抜く判断力・行動力の育成に向けて、日常指導における安全指導の充実と、交通安全教室、避難訓練等の計画的な実施をする。</p>	<p>【達成状況】 教職員 97.8% 保護者 93.2% 地域住民 100% 児童 95.4%</p> <p>・感染症の影響により元気っ子チャレンジや検定への参加は可能な範囲で行い、運動に親しむことができた。給食の配膳の仕方に制限があり、一人一人の量の調整が難しくなったので、若干残量が増えた。室内で過ごすことが増えたが、各学級の指導により安全に気を付けて生活できる児童が増え、けがをする児童の人数も減った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・体育科の授業において、展開を工夫し、活動量の確保に努める。</p> <p>・日々の給食指導において、特に「安全に・衛生的に」の共通理解を徹底し、実施する。</p> <p>・感染症の影響で、校庭割り当ての関係から、室内で過ごす時間が増える。引き続き、各学級での安全指導を徹底する。</p>
<p>A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】児童 85%</p> <p>【再掲A5】</p>	<p>①児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。</p> <p>②宮・キャリア・パスポートの活用を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100% 保護者 84.2% 児童 92.4%</p> <p>・様々な場面を捉えて、児童に目標をもって取り組むよう支援に努めた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・継続して取り組むだけでなく、宮・未来キャリア・パスポートを活用しながら、夢を抱いてやり抜く児童の育成を目指していく。</p>

<p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 児童 85%</p>	<p>①相手意識や目的意識を大切にした外国語活動の授業を通して、英語で伝え合う楽しさを感じ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。</p> <p>②外国語活動に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員 97.7% 児童 97.2%</p> <p>・相手意識や目的意識をもって積極的にコミュニケーションを図ろうとしていた。</p> <p>・校内研修における教材研究により、外国語活動の授業への意識が高まった。</p> <p>【次年度の方針】 ・より自信をもってやり取りをしたり発表をしたりできるような授業づくりに努める。</p>
<p>A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 児童 85%</p>	<p>①生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や校外学習等において、学習内容と関連させながら、児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。</p> <p>②教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員 80.0% 保護者 64.9% 児童 83.0%</p> <p>・図書室に本やリーフレットなどの参考資料を揃えることができた。</p> <p>・身近な地域、宇都宮のよさに気付かせる教師の働きかけが必要である。</p> <p>【次年度の方針】 ・社会科や総合的な学習(宇都宮学)を中心に、自分の住んでいるところの良さを意識付ける。</p>
<p>A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 児童 85%</p>	<p>①児童が情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。</p> <p>②辞典の使い方や図書資料での調べ方等について学校図書館司書を授業に活用し、図書室利用の充実を図る。</p> <p>③授業の中でタブレット型PCの効果的活用を図るとともに、プログラミング教育の計画的な実践に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員 97.8% 保護者 76.8% 児童 94.4%</p> <p>・タブレット型PCの導入に伴い、積極的に活用できた。</p> <p>・図書館を開館できてからは、意欲的に活用する児童が多かった。</p> <p>【次年度の方針】 ・プログラミング教育の計画的な実践に努める。</p>
<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 教職員 85% 【再掲A2】</p>	<p>①人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。</p> <p>②総合的な学習の時間や学校行事・地域行事等において、地域の方や高齢者と交流する機会を設け、感謝や相手を思いやる心を育む。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100% 保護者 92.0% 地域住民 100% 児童 93.5%</p> <p>・コロナの影響で、学校行事・地域行事等での地域の方や高齢者と交流する機会が少なかったが、そういった状況の中でも、登下校を見守ってくださる方々への感謝の気持ちを伝える感謝の会や太鼓クラブで地域の方を講師として招くなど、限られた活動の中で親近感や感謝の気持ちを持つことができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・学校行事等を通して、児童が地域の方や高齢者と交流する機会をしっかりと設けていきたい。また、地域の方や高齢者と交流を通じて、他者理解を図り、他人を思いやる気持ちや共に生きていくという考え方を育んでいく。</p>
<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 児童 85%</p>	<p>①環境教育等を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。</p> <p>②過去の災害の具体事例や避難訓練などを通して、防災意識を高め、防災教育を充実する。</p>	<p>【達成状況】 教職員 77.3% 児童 91.6%</p> <p>・植物の世話やごみの分別等をして、環境に対する意識を高める指導をした。</p> <p>・コロナ渦でもできる範囲での防災訓練を実施した。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、清掃活動や自然と触れ合う活動を通して、環境問題に対する意識を高めていく。</p> <p>・コロナ渦でもできる範囲で、より実践的な防災訓練を継続する。</p>

	<p>B 1 児童は交通ルールを守って安全に登下校している。</p> <p>【数値指標】 地域 85%</p>	<p>①地域・保護者・教職員が登下校指導を一体となって実施する。月1回集団下校を実施する。その際、地区担当教員が登下校の様子を聞き、必要に応じて指導したり、一緒に下校したりして安全な登下校ができるようにする。</p> <p>②警察スクールサポーター、スクールガードチーフ等の協力を得て、交通安全教室を計画的・継続的に実施したり、警備会社と連携して防犯教室を行ったりして、自他の安全を守り、実践的な理解が深められるようにする。</p>	<p>【達成状況】 教職員 95.7% 保護者 87.7% 地域住民 100% 児童 94.5%</p> <p>・登下校の安全やルールについて、共通理解を確実にし、困っていること等を担当地区教員と共に解決する時間を定期的に設定することで、安全への意識が高まった。</p> <p>【次年度の方針】 ・各学年学級で、継続的に安全指導を行い、各団体とも連携しながら取組を推進する。</p>
	<p>B 2 児童は学校や地域のために積極的に働いている。</p> <p>【数値指標】 児童 85%</p>	<p>①係活動や委員会活動、毎日の縦割り班清掃にめあてを持って取り組めるようにする。</p> <p>②校外の清掃活動として、なかよし通りや中央公園の「クリーン活動」を実施し、人のために働く喜びや地域への愛着を高める。</p> <p>③保護者とともに、愛校の日の清掃活動を実施する。</p>	<p>【達成状況】 教職員 97.8% 保護者 77.4% 地域住民 100% 児童 92.0%</p> <p>・学校や地域のためにという自覚をもって、クリーン活動や清掃、委員会活動に取り組む児童が増えている。</p> <p>・新型コロナウイルスのため愛校の日の清掃活動の実施ができなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・児童一人一人が活動の意義を理解し、めあてをもって取り組めるよう教員が十分に指導支援に努める。</p>
<p>目指す学校の姿</p>	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員 85%</p>	<p>①教育相談や個人懇談等を計画的に実施し、一人一人のニーズや実態を踏まえた支援に努める。</p> <p>②他学級との授業交換や学年合同活動を行い、広く児童理解・学業指導に努め、児童が教師及び児童相互の信頼関係を深めながら、学校生活を送れるようにする。</p>	<p>【達成状況】 教職員 95.7%</p> <p>・教職員は、一人一人の児童理解や日々のかかわりを通して、信頼関係の構築に努めていた。</p> <p>・学年会やケース会議等を通して、一人一人のニーズや実態を把握したり、支援の方向性を話し合ったりしたが、多くの教員で共有し、多面的な児童理解に努める必要があった。</p> <p>【次年度の方針】 ・日々のかかわりや教育相談等を通して、児童理解に努め、適切な支援に努める。</p> <p>・様々な教職員が一人一人の児童にかかわり、より良い信頼関係を築くことができるよう、職員間の共通理解を図り、児童がより良い学校生活を送ることができるよう支援していく。</p>

<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 児童 85%</p>	<p>①確かな児童理解に基づいた、児童にとって居がいのある学級づくりや道徳の授業実践などを通していじめを許さない態度の育成を図り、いじめの起こらない環境づくりに努める。</p> <p>②学校生活アンケートや教育相談の実施、職員間で定期的な情報交換の場を確保することで児童や学級についての共通理解を図り、いじめの早期発見・早期対応に努める。また、いじめ等対策委員会を設置し、組織的な対応を図る。</p> <p>③携帯電話やメール等、情報モラル教育の強化に努めるとともに、「いじめゼロ強調月間」における取組やいじめに関する各種日より、「宮っ子心の教育」に係る児童会主体の活動のさらなる充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100% 保護者 86.9% 地域住民 100% 児童 99.2%</p> <p>・日々のかかわりや教育相談、定期的なアンケートの実施を通して、児童の実態把握に十分に努めることができた。また、結果を職員間で共有し、支援や指導に取り組んだ。</p> <p>・学級での日常的な指導や道徳科の授業、「いじめゼロ標語」の作成や「いじめゼロ集会」などの取組などを通して「いじめはいけないことである」という児童の意識が高まってきた。</p> <p>【次年度の方針】 ・次年度も全校体制で継続して取り組んでいくとともに、学校での取り組みを保護者にも知らせる機会を増やすよう努める。</p>
<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 児童 85%</p>	<p>①児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに認め励ます指導を行い、居がいのある学級経営に努める。</p> <p>②教育相談、QU調査、定期的な校内アンケート等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見と、校内全体の情報共有を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100% 保護者 92.8% 児童 98.7%</p> <p>・児童にとって安心感と居がいのある学級経営に努めている。また、教育相談や定期的なアンケートを通じて児童の実態把握に努め、児童の悩みに迅速に対応した。</p> <p>・不登校の兆しを早期発見し、適切な支援を行うことができるよう、学年会やケース会議を実施し、校内全体で対応した。</p> <p>【次年度の方針】 ・次年度も全校体制で継続して取り組んでいく。居がいのある学級経営に努めるとともに早期発見・支援を徹底していく。</p>
<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員 85%</p> <p>【再掲A13】</p>	<p>①外国人児童の実態や家庭環境に応じた日本語指導教師の活用を行うなど、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。</p> <p>②児童が、互いの国籍や文化の違い等認め合い尊重しながら生活できるよう、日常的な指導に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員 95.7%</p> <p>・日本語指導教師との連携を図りながら、外国籍児童に適切な支援ができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き継続して取り組むとともに、安心して学校生活を送れるような支援を行っていく。</p>
<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 保護者 85%</p>	<p>①学校行事等において、児童が主体的に活動する場を多く設定し、活気あふれる学校づくりをする。</p> <p>②誰もが居場所を確保できる学級経営に努める。</p> <p>③授業では、学習意欲を高める多様な体験的学習の工夫をする。</p> <p>④縦割り班活動や学年合同活動等、及び日常的な交流活動を実施し、児童が意欲を持って活動できる場を設定する。</p>	<p>【達成状況】 教職員 93.5% 保護者 95.2% 地域住民 100% 児童 94.7%</p> <p>・コロナ禍の影響で、学校行事や縦割り班活動、学習を高める多様な体験的学習を行うことが難しかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・可能な限り工夫して、発達段階に応じた体験的な学習の場を取り入れたり、児童が主体的に活動できる場を継続して設定したりしていく。</p>

<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 児童 85%</p>	<p>①『つかむ』『考える』『深める』『確かめる』という指導過程の授業を展開し、教材研究に努めるなどして分かる授業の充実を図る。</p> <p>②個・学級・学年の実態を把握するとともに、4年生以上の算数でTTや少人数指導など、学習形態の工夫を図り、個に応じたきめ細やかな指導を行う。</p> <p>③教員の指導力の向上を目指し、研究授業と授業後の研究会を実施して、校内研修の充実を図る。</p> <p>④各学年の発達段階に応じて宿題の出し方を工夫したり、「家庭学習のしおり」を家庭に配付したりして、保護者の協力を得て、家庭学習の習慣化を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員 97.8% 保護者 89.9% 児童 98.7%</p> <p>・4年生以上の算数で、TTや少人数指導を取り入れ、個に応じた指導を行ってきた。</p> <p>・家庭学習強化週間の実施により、家庭学習の習慣化、周知を図った。家庭学習時間の意識が高まり、意欲的に取り組んでいた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・分かる授業の充実を図るために校内研修の充実を図り、教員の指導力の向上を目指す。</p> <p>・家庭学習強化週間の回数を増やし、児童や保護者の意識の向上を目指す。</p>
<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員 85%</p>	<p>①互いを認め合い、いたわり合い、補い合い、励まし合い、高め合う教職員を目指し、課題への対応や行事の運営等に、一丸となって取り組むよう努める。</p> <p>②学校スタッフの職務に応じた指導計画・実施計画の立案に努め、役割を明確にした組織運営に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員 87.0%</p> <p>・コロナ禍で学校生活が大きく変化し、行事の変更が相次いだが可能な限り時間を確保し共通理解を図ってきた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・学年・ブロックでの連携を大切にして、学校全体がチームとなれるよう今まで以上に、情報共有を密にしていく。</p>
<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員 85%</p>	<p>①学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。</p> <p>②教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善を行う。</p> <p>③学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。</p>	<p>【達成状況】 教職員 75.6%</p> <p>・コロナ対策として、新たな生活様式(消毒作業・3密回避のための指導の徹底・休み時間の対応等)になり、本来の業務に支障をきたしたため、業務時間の増加につながった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・ICTを活用し業務改善に努めることにより、教職員の負担軽減を図る。</p> <p>・今年度の経験を踏まえて、さらに行事の精選・見直しを行っていく。</p>
<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 教職員 85%</p>	<p>①中学校教員による6年生への乗り入れ授業の実施や全校一斉の進学先中学校訪問により進学への不安解消や希望・期待感を高める。</p> <p>②小中合同の取組を行う。(挨拶運動・給食後の歯みがき・目の体操・サーキット運動・図書館だよりの発行等)</p> <p>③学校園一斉のお弁当の日の実施や食育だよりの発行、共通献立の実施等を行う。</p>	<p>【達成状況】 教職員 90.9% 保護者 77.1% 地域住民 100% 児童 56.8%</p> <p>・目の体操や学校園図書日より、宮・MIYA・文庫、中学校の図書委員が書いたおすすめの本の紹介など小中合同の取組を実践した。</p> <p>・共通献立や中学校が作成したお弁当の日のDVD視聴を実施した。</p> <p>・小中一貫のカリキュラムに則った教育課程に従って、小・中の学びのつながりを意識しながら実践できた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・今後とも小中連携を図り9年間を見通した計画を検討していく。</p>

<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 保護者 85%</p>	<p>①地域協議会等と連携を図り、新たな地域人材の募集などを行いながら、学校支援ボランティア（地域探検の補助やボランティアティーチャー、学習支援など）等を活用した授業を計画的・継続的に実施する。</p> <p>②地域の県立博物館・中央公園・市立図書館・文化会館・气象台等の文化施設を積極的に授業に活用する。</p> <p>③<u>企業等との連携を図った体験型学習を積極的に実施する。</u></p>	<p>【達成状況】 教職員 100% 保護者 89.0% 地域住民 100% 児童 93.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材や教材の活用及び校外学習実践について一覧表にまとめ、地域の教育力を有効に活用できるようにした。 ・県立博物館・中央公園・市立図書館を活用した授業を展開した。 ・黄鮎絵付け体験・NTTによるネット安全教室・社会福祉協議会による点字および手話教室等の出前講座を活用し、体験的学習を実施した。
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 保護者 85%</p> <p>【再掲 A 2 2】</p>	<p>①日常的に校内巡視を行うと共に定期的な安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。</p> <p>②危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。</p> <p>③熱中症対策予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。また、コロナウイルス感染症対策として、学校生活全体を通して保健指導管理に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100% 保護者 94.1% 地域住民 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な安全点検により、危険箇所を把握し、速やかな修繕に努めた。 ・様々な設定の避難訓練を実施し、備えを万全にした。 ・感染症の拡大防止に向けて、マスクの着用・手洗い・消毒・換気体調管理カードの提出など、予防の呼びかけと知識の共通理解に努めた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域人材や教材、学校支援ボランティアを有効活用した授業を計画的・継続的に行う。
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 教職員 85%</p>	<p>①児童が情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的に ICT 機器を活用する。</p> <p>②各学年の授業内容との関連に配慮した教育図書を整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員 97.8% 保護者 76.8% 児童 94.4%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館司書を中心に、授業に活用できる図書が充実し、書架に並ぶ本の数が増えた。 ・パスファインダーを作成し、必要な時期に必要な図書を各学年に提供できた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人用タブレットを積極的に活用できるよう工夫する。 ・おすすめ本などを活用し、学年の発達段階に応じた本を読めるように呼び掛けていく。
<p>A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 教職員 85%</p> <p>【再掲 A 1 0】</p>	<p>①児童が情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的に ICT 機器を活用する。</p> <p>②各学年の授業内容との関連に配慮した教育図書を整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員 97.8% 保護者 76.8% 児童 94.4%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館司書を中心に、授業に活用できる図書が充実し、書架に並ぶ本の数が増えた。 ・パスファインダーを作成し、必要な時期に必要な図書を各学年に提供できた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人用タブレットを積極的に活用できるよう工夫する。 ・おすすめ本などを活用し、学年の発達段階に応じた本を読めるように呼び掛けていく。

	<p>B 3 学校・保護者・地域が一体となって、読書活動の充実に努めている。</p> <p>【数値指標】 児童 85%</p>	<p>①週2回、クラスごとに落ち着いた雰囲気の中で朝の読書を行うとともに、図書室利用の時間の活用を工夫する。</p> <p>②各学年オープンスペースへの読書コーナーを設置し、読書に親しめる環境を作る。</p> <p>③図書委員や保護者・地域ボランティアによる読み聞かせを月1回実施する。</p> <p>④辞典の使い方や図書資料での調べ方等について学校図書館司書を授業に活用し、図書室をさらに利用できるようにする。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100% 保護者 94.0% 地域住民 100% 児童 78.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下学年では図書館司書が授業に参加することにより、読書への啓発を図ることができた。 ・調べ学習の際には、クラスでまとめて借りたり、巡回図書を活用したりした。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本に触れているということを日頃から意識づけさせながら、活用させる。
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B 4 教職員は、ほめて伸ばす指導に努めている</p> <p>【数値指標】 児童 85%</p>	<p>①長所を伸展させるという視点に立ち、児童のよさや得意なことを見つけ、それをほめて伸ばす指導を行う。</p> <p>②「まごころカード」を活用し、児童のよさや頑張りを積極的に称賛するとともに、豊かな心を育てる小さな親切運動の推進を図る。</p> <p>③学校生活における児童の頑張りの活躍を認め、賞賛する表彰制度を設けたり、ホームページや各種たより等を利用したりして家庭や地域に知らせる。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100% 保護者 93.2% 地域住民 100% 児童 97.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年継続して全職員が「ほめて伸ばす指導」を取り組むように努めた。 ・日々のかかわりから児童の実態やニーズを教職員が十分に把握し、児童のよさや頑張りを十分に称賛している。 ・「まごころカード」を通じて児童が他児のよさに目を向け、称賛する姿が多くみられる。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の特色であり、どの学年でも児童のよさを認め、称賛し、自己肯定感を高める指導を継続していく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

<p>1 教育活動全体状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体アンケートでは、指標を達成できた項目は29項目中26項目であった。 ・市全体の小学校の結果と比較すると、児童と保護者の肯定的回答率は、「小中一貫・地域学校園の取組」以外は、全て市を上回っていた。地域住民については、全て市の平均を上回っている結果であった。 ・市の平均と比較して、一部の項目に教職員の肯定的回答率がやや低い傾向がみられる。このことから、教職員は高い目標をもって児童の指導に熱心に取り組んでいる姿が伺える。 <p>2 学校運営の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A17「学校は活気があり、明るく生き生きとした雰囲気がある」の項目は、すべての評価対象で90%を超えているが、昨年度や市の平均と比べると、教職員の肯定的割合が下回っている。コロナの影響で様々な活動に制限がある中で、縦割り班活動や学年行事等において、十分な活動ができなかったという教職員の思いが結果に出ていると考えられる。この状況下が続く中においては、一人一人が生き生きと活動できるような場を工夫して設定していきたい。 ・A20「教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」については、日課表や業務の改善を行ってきたが、まだ課題がみられるため、今後もさらに検討していく必要がある。 ・A22土曜授業等で外部講師を招いての授業を行うことができたが、コロナの影響で地域の参加は難しかった。今後も状況を見ながら、地域協議会の学校教育支援部会と連携し、各種ボランティア等を活用した学習や地域の文化施設を積極的に活用した授業を、計画的・継続的に実施していく。 <p>3 教育活動の状況</p> <p>①生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ・いじめ・不登校・規範意識・思いやり・自己有用感など各項目で達成状況を見ると、全体的に9割以上達成されている。 ・A4「あいさつ」に関する肯定的回答率は、教職員・地域・児童とも90%以上である。保護者は84.0%であるが、H29年
--

度は72%、H30年度は76%、R1年度83.8%と肯定的回答率は高くなってきている。校内の児童の様子を見るとあいさつの習慣は、どの学年の児童もよく身に付いている。今後も地域や家庭と連携を取りながら、児童が誰に対しても気持ちのよいあいさつができるよう指導を継続していきたい。

- ・A3「規範意識」に関する肯定的回答率も、教職員・保護者・地域・児童とも90%以上である。これは市の平均よりもいずれも高い値となっている。ルールやマナーの意味を理解し、ルールを守りながら自分のことも周りのことも大切にできる児童の育成に今後も全校体制で努めていきたい。そして、児童の頑張りがよさをよく見取り称賛することで、一人一人の児童が学校生活の中で意欲や自己有用感を高められるよう取り組んでいきたい。
- ・A14「いじめが許されない行為であることの指導」に関する肯定的回答は、教職員や地域住民は100%、児童は99.2%と高い達成状況である。今後も全教職員で一人一人の児童理解に努め、学校全体の組織的ないじめ対策を推進し、いじめ撲滅に向け十分に取り組んでいきたい。

②健康・体力

- ・A6「健康や安全」に関する肯定的回答率は、教職員・保護者・地域・児童全てにおいて93~100%で昨年度をそれぞれ上回っている。また、市の平均よりも、いずれも上回っている。コロナ禍で、3密回避の点から校庭の使用が制限されているにもかかわらず、外遊びの奨励や工夫した教科体育を実践してきた結果が表れている。更に体力の向上が図れるよう、保健・給食指導の充実や教科体育の授業改善に努め、推進していく。また、安全・防災教育では、コロナの影響から、実践的な訓練に制限はあったが、今後も、登下校時の安全指導や防災訓練を各団体と連携して取り組んでいく。

③学力

- ・A1「児童の授業に対する主体的な取組」、A18「分かりやすいきめ細やかな指導」で、保護者・児童とも昨年度よりも上回っている。また、市の平均よりも2~3%上回っている。ねらいを明確にした授業づくり、課題提示の工夫、ねらいに即した振り返りの実施等により、学習内容の定着、学力向上にさらに努めていく。
- ・A8「英語を使つてのコミュニケーション」で、児童の評価が97.2%と昨年度よりも2.5%上回った。また、教職員・児童ともに、市の平均よりも3~8%上回った。外国語に関する校内研修を進めてきた成果が表れている。
- ・A9「宇都宮の良さ」については、児童の評価が83.0%で指標を下回っている。社会科や総合的な学習(宇都宮学)を中心に、自分の住んでいるところの良さを意識付ける授業を展開していくようにする。
- ・A10「ICT機器や図書等の整備・活用」で、児童の評価は94.4%となり、昨年度より児童も保護者も約7%上回った。また、これは、教職員・保護者・児童のいずれにおいても、市の平均よりも上回った。今年度、授業の中で十分活用してきた結果が表れている。さらに、来年度は、一人1台のタブレットが導入されるので、授業や家庭で効果的な活用を推進していきたい。

④本校の特色

- ・B1「安全な登下校」については、地域住民の評価は100%で昨年の92.3%より上回った。教職員・保護者も昨年度よりも肯定的回答の割合は上回っている。しかし、児童の評価は、94.5%と昨年度よりも2%下回っている。自分たちの登下校の様子をしっかりと振り返り、安全を意識して登下校しなければならないと考えている様子が伺える。今後も学年下校や集団下校において安全指導を継続し、地域各団体やPTAと連携しながら安全指導に取り組んでいく。
- ・B2「地域や学校のために積極的に働く」の児童の評価は92.0%で昨年度よりも7.8%上回った。教職員・保護者・地域共に昨年度よりも上回っていて、日常の清掃活動や「クリーン活動」に各自がめあてを持って取り組み、学校や地域のために活動している様子が伺える。
- ・B3「読書活動の充実」については、児童の評価は、78.2%で、昨年よりも13.4%上回った。校内の指標である85%には達していないが、今後も、図書室の活用や朝の読書タイム、読み聞かせ、お話し会、学校図書館司書の活用や調べ学習などを通して本の有効活用をさらに進めていく。
- ・B4「ほめて伸ばす指導」についての児童の評価は97.3%、保護者評価も93.2%で、昨年度よりもさらに教職員の児童に寄り添う指導が伝わっている。今後とも、まごころカードや帰りの会での称賛、良さを認めた言葉かけなど、児童を認め励まし、自己有用感や自己肯定感の育成を目指す指導に努めていく。

7 学校関係者評価

- ・児童の育成向上に向けた設定目標に対して、達成を図るために、各種の施策を展開し、更に新型コロナの環境化の中で、教職員が丸となり取り組んだ結果、総体的に市の平均や前年度を上回っている項目が多く、一定の成果が顕著に出ている。
- ・教職員の業務効率化については、市の評価や前年度の評価との差が大きく、驚いた。今年度はコロナ対策のために、本来の業務に支障をきたしたと思うので、今後は、昨今の働き方改革の状況を鑑み、ICT活用するなどして、効率的な労働短縮等

向上に期待する。

- ・家庭・地域・企業との連携協力については、今年度は、コロナウイルスの関係で中止になったが、地域としても今後の状況を見ながら、学校との連携を更に深めていきたい。
- ・保護者があまり達成されていないと感じることに ICT がある。今後、オンライン授業をしなくてはならない場合を想定しても、PC への取組は早期に対応してほしい。また、地域学校園の取組を知っているかどうかは、温度差を感じる一つだ。
- ・宇都宮の文化等について、もう少し学ぶ機会があってもよいのかなと思う。
- ・業務の効率化について、こういった事業自体が教職員の大きな負担になっているのではと懸念する。国や県や市が本格的に教職員の負担減に取り組まないとなかなか難しい。学校に丸投げは無責任だと思う。
- ・読書活動も今年度は家で読む時間が増えたのかもしれない。今年度はコロナで読み聞かせがなくなってしまったので、来年度は実施でき、今後も本に興味をもつ児童が増えるとうい。
- ・あいさつについては、保護者の肯定的回答が他に比べてやや低いですが、年々良くなっていることはうれしいことだと思う。校内だけでなく、どんなところでも相手の目を見てあいさつが出来るようになるとよい。今後も、地域・家庭・学校の連携を深めていきたい。
- ・今は、誰もが大変な時期。学校・保護者・地域が一体となって、児童の育成に取り組んでいくことが大切だと思う。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・今年度は 29 目中、26 項目で指標を達成できたので、次年度も各取組を継続することで、より確実に達成できることを目指していく。
- ・今年度末にタブレットが導入され、4 月からは本格的に ICT 機器の活用を進めていくことになる。効果的に活用することで、さらに分かりやすい授業や一人一人へのきめ細やかな指導の推進に努める。
- ・宇都宮の良さについて学ぶ「宇都宮学」の授業を工夫して行うことで、郷土についての理解を深めていくように努める。
- ・「読書活動の充実」については、校内の指標には達していないが、昨年度よりも伸びが見られる。今後も、図書室の活用や朝の読書タイム、読み聞かせ、お話会、学校図書館司書の活用や調べ学習などを通して本の有効活用をさらに進めていく。
- ・今後も、教育相談やアンケートの実施を通して、いじめや不登校傾向の早期発見・早期対応に努めたり、特別な支援を必要とする児童への適切な支援を、学校全体で共有化して取り組んだりして、組織的な取組を推進していき、児童理解と適切な支援に努める。
- ・ICT を活用して業務の効率化に努めたり、行事の精選・見直しを行ったりしていくことで、教職員の業務改善を図る。
- ・今年度はコロナの影響で、地域と連携を図った授業を展開することが難しかった。次年度は、対策を十分とった上で、できる活動を増やし、よりよい児童の育成に取り組んでいく。
- ・地域学校園の指導方針に基づき、小中で一貫した取組を行うとともに、保護者や地域とも連携し活動の充実を図る。また、取組の内容については、周知に努める。